

令和4年度天皇杯受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

6次産業化で中山間地域の課題解決と活性化に貢献

○氏名又は名称 株式会社パストラル（代表 市原 幸夫）

○所在地 熊本県山鹿市

○出品財 経営（水稲、栗ほか）

○受賞理由

・地域の概要

山鹿市は、県北部の菊池川の中流域に位置し、平野部では米をはじめスイカやメロン、キンカンなど、中山間地域では栗、たけのこ、かんきつ類、柿、シイタケなど、多様な品目が生産され、特に栗は県内トップの生産量を誇っている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

中山間地域における規格外農産物を利用したスモールビジネスを構築するねらいで平成9年に設立し、「産地アイス」の製造販売を開始した。アイス事業を展開する中で、地域農業の衰退や中山間地域の人口減少といった地域課題をビジネスによって解決していく必要性を認識し、農業に参入している。現在は、全体を統括する代表取締役夫婦と3組の息子夫婦が協力して、事業に取り組んでいる。

・受賞者の特色

（1）中山間地域に適した農業の展開、事業や農地の継承の取組

稲作では、規模拡大が難しい中山間地域に適した方法として、合鴨と水稲の同時作を導入し、高付加価値米の生産・販売を行っている。また、高齢化で継承が困難となったあんぽ柿加工事業を承継し、渋柿の生産を引き継ぐことで、圃場や里山の景観の維持に貢献している。

（2）地域の個性を生かした6次産業化

次男夫婦及び地元の栗生産者等から購入した山鹿栗の全量を自社で栗ペーストに加工し、モンブランや栗ジャム等を自社の洋菓子店で製造・販売している。また、事業承継したあんぽ柿を使ったオリジナルスイーツの開発のほか、地元酒蔵や製茶工場、味噌・醤油造蔵所と連携したチョコレート製品等の開発も行い、地域内連携を強化している。

・普及性と今後の発展方向

今後、高齢化等で存続が難しくなった域内農産加工の事業承継のほか、新たに地域資源を活用した多様な小規模事業の企画立案・実施を検討している。1つの事業の規模拡大を目指すのではなく、里山資源を活用した小さな事業（異分野との連携を含む）を繋げていくことで里山の価値づくりや地域価値向上の仕組みづくりを行いたいと考えている。